



深谷赤十字病院

日本赤十字社

日赤通り



特集 “日赤の災害救護活動”

日赤の国内災害救護、直近の災害救護
派遣状況について紹介します。 P.1

平成30年 秋号

Vol.58

CONTENTS

- | | |
|--------------------------|----------------|
| ●第9回心臓カテーテル手術ワークショップ P.3 | ●医療機器紹介 P.6 |
| ●新任医師紹介 P.4 | ●地域医療連携だより P.7 |
| ●診療科紹介(産婦人科) P.5 | ●INFORMATION |

日本赤十字社の国内災害救護活動について

Q 国内災害救護活動とは、具体的に何をやるのですか？

A 日本赤十字社が国内で行う災害救護活動は次のとおりです。

- ① 医療救護
(医療・助産・死体の処理)
- ② 救援物資の備蓄と配分
(毛布・緊急セット・安眠セット)
- ③ 血液製剤の供給
- ④ 義援金の受付と配分
- ⑤ その他災害救護に必要な業務
(こころのケア・外国人の安否調査など)



緊急セット

Q 医療救護には誰が行くのですか？

A 各赤十字病院には救護班が常備されており、出勤命令を受けた救護班が被災地に出動します。

一つの救護班は、6名「医師(班長) 1名、看護師長1名、看護師2名、主事(事務系職員) 2名」を基本構成としていますが、状況によって薬剤師・放射線技師などを加えた編成となります。

深谷赤十字病院は3個班を常備しています。

平成30年7月豪雨災害の派遣報告 [深谷赤十字病院こころのケア班]

豪雨災害は7月6日に岡山県・広島県を中心に発災し、発災直後から多くの医療チーム・災害派遣チームが集結し、支援にあたりました。

その中で、日赤では災害時の「こころのケア」を災害救護活動の重要な柱の1つに位置付けており、心理的支援・社会的支援をするために、こころのケア班が7月18日から現地に派遣されました。

深谷赤十字病院こころのケア班(3名)は、8月25日(土)から31日(金)まで広島県呉市で活動しましたが、日赤のこころのケア班の派遣が8月31日で終了することが決定していたため、行政機関等に引き継ぎを行うという大切な役割も担うこととなりました。

主な業務としては、こころのケア班の活動予定計画や避難所での活動調整、支援者(被災した行政の方)支援、ケア班帰還後のデフュージング、日本赤十字社本社との連絡などでした。

また、日赤が担当していた管轄地区の保健師、県のDPAT(災害派遣精神医療チーム)に対し、今後も支援が必要な被災者に切れ目のない支援が提供できるよう引き継ぎました。

保健センター長や保健師は、「応援がなくなったところからが本番」「やらなければいけないことはたくさんあるが、どこから手をつければいいのか分からない」と話しており、日赤は急性期に現地入りし、フェーズを考慮して撤退しますが、残された現場の方々の大変さを痛感しました。

また、自身が被災者でありながら、他の被災者の支援を行う支援者(行政の方)に対するこころのケアの重要性を再認識しました。

まだまだ復興には時間がかかると思いますが、一日も早く被災地に笑顔が戻ることを祈っております。



Q. 国内災害救護には何を持っていくのですか？

A. 救護班の主な携行資機材は次のとおりです。

医療セット、テント、担架、簡易ベッド、毛布、無線機、衛星電話、発電機、投光器 など



Q. DMAT・JMATなどの言葉を聞きますが、何ですか？

A. どちらも日赤とは別の災害派遣医療チームの略称になります。DMATは厚生労働省や各都道府県が統括するチームであり、JMATは日本医師会が統括するチームとなります。

最近では、日赤以外の様々な団体も医療救護活動に参加してきているため、災害対策本部や災害医療コーディネーターと呼ばれる調整役を介して、他の医療チームと協力しながら赤十字の使命を果たしております。

平成30年北海道胆振東部地震の派遣報告 [深谷赤十字病院救護班]

9月6日午前3時8分頃、北海道胆振地方東部を震源とするM6.7（最大震度7）の地震が発生しました。

日赤では発災直後から、北海道支部を中心に情報収集や連絡調整にあたり、迅速に毛布・緊急セット・安眠セットなどの救援物資を配付し、救護班が厚真町などの地域で医療救護活動を開始しました。

深谷赤十字病院救護班は、9月15日（土）から18日（火）まで安平町で巡回診療を行いました。

今回は発災場所が北海道ということもあり、空路で被災地入りするため、被災から10日経過していることを考慮しながら最小限の資材を携行して出勤しました。

派遣された時期は急性期が過ぎていたため、避難所では救援物資が整い、感染対策や共同生活のルールが確立されていました。深谷赤十字病院救護班は7ヶ所の避難所を担当しましたが、医療ニーズの減少に伴い最終的には2ヶ所の避難所となりました。避難所では、保健師や災害支援ナースから情報を得ながら、慢性疾患や転倒、自宅の片付けをする際に負った切創処置やDVT予防のための活動を行いました。

また、今回の救護班には薬剤師も同行したため、薬剤指導や処方も行うことが出来ました。

被災地には様々な支援団体が介入するため、支援者同士が情報を密に共有し、被災者の方が苦痛とならないように対応することの大切さを学びました。

被災地の一日も早い復興を心から祈っております。



第9回心臓カテーテル手術ワークショップを終えて

循環器科 副部長 関口 誠

当院の循環器科は、虚血性心疾患のカテーテル手術に力を入れており、日常診療から学会発表・論文執筆まで幅広く活動しています。特に急性心筋梗塞に対する緊急心臓カテーテル手術は24時間365日いつでも施行できる体制を整えています。高い技術が必要とされる冠動脈慢性完全閉塞病変の治療も積極的に行っており、最近では当院での治療を希望され、県外から受診される患者様も増えてきています。

また、自身の診療レベルの向上と、埼玉県北部の基幹病院の責務としての医学教育を目的として、7年前より心臓（冠動脈）カテーテル手術ワークショップを開催しています。ワークショップとは、地域病院の医師に当院の心臓カテーテル手術を見学していただき、その前後の討論も含めて技術指導等を行う教育システムです。

平成30年9月10日にブラジル人医師が当院に訪問し、第9回心臓カテーテル手術ワークショップを開催いたしました。ブラジルの中心都市の一つでもあるサンパウロ市内で働く5名の医師が研修され、午前10時30分の伊藤院長の挨拶から始まり、3例の心臓カテーテル手術を見学していただきました。

日本とブラジルでは医療制度の違いもあるため、すべてのことが同様に行えるわけではありませんが、ブラジル人医師達からは少しでも多くのことを学んでいこうとする気迫を感じました。特に昼食を兼ねた症例検討会では多くの質問を受け、ほとんど昼食が摂れないくらいでした。また、予定時間を過ぎて全員が最後まで熱心に見学されていたことが印象的でした。

今回は遠くブラジルの医師も、我々と同じく少しでも良い医療を患者さんに提供しようと日々努力していることが実感できたワークショップでした。



新 任 医 師 紹 介



(診療科) 産婦人科
 (名 前) 鎌田 広之
 (出身大学) 聖マリアンナ医科大学
 (趣 味) スキー、キャンプ、B'z
 (抱 負) 埼玉生まれですが、初めて深谷の地に降り立ちました。地域の方々に貢献できるよう頑張ります。
 半年という短い期間ですが、多くを吸収できればと思います。
 よろしく願いいたします。



(診療科) 外科
 (名 前) 合原 巧
 (出身大学) 埼玉医科大学
 (趣 味) 野球、バドミントン
 (抱 負) ずっと大学病院の小児外科で勤務していましたが、初めての他病院、成人外科で勤務するため、新しいことを幅広く学び、今後活かせればと思います。
 よろしく願いいたします。



(診療科) 緩和ケア外科(副部長)
 (名 前) 浦川 雅己
 (出身大学) 筑波大学
 (趣 味) 読書
 (抱 負) とかく終末期医療をイメージされる緩和ケアですが、本来は癌治療において早期から介入し、ご本人、ご家族、主治医の先生の治療のサポートを行う治療部門です。地域の患者さんと先生方のお役に立てるよう努めさせていただきます。

平成 30 年度 チューリップサロンのご案内

開催日時：毎月第3木曜日 14時30分～(途中参加も可能です)
 場 所：外来棟1階 相談支援センター
 申込方法：申込は不要です。当日直接お越しください。
 問合せ先：048-571-1511 (内線) 6272 小暮

開催日	内 容	担当者
11月15日	編み物で小物作り 冬に向けてかわいらしい小物を一緒に作ってみませんか?	都木(看護係長)
12月20日	クリスマス会 お茶とお菓子を囲みながら楽しい時間を過ごしましょう。	小暮(緩和ケア認定看護師)、 多田、荻野
1月17日	化学療法の話② 抗がん剤治療に伴う爪や皮膚トラブルへの対処法をお伝えします。	尾川 (がん化学療法看護認定看護師)
2月21日	がんの痛みの話 痛みとの付き合い方やお薬についてお話しします。	多田(がん看護専門看護師)
3月14日	ひなまつり 女の子の節句ですが、男性の方も大歓迎です。	小暮、多田、荻野

チューリップサロンとは、がん患者さんと、そのご家族のための相談・情報交換を行う場です。
どなたでも(当院に受診されていない方でも)、ご参加いただけます。



Q. 深谷日赤の産婦人科の特徴を教えてください。

A. 【産科】

スタッフ全員が助産師であること生かし、
医師と協働のもと、安心安全なお産を目指
しています。

【婦人科】

地域の中核病院として、基本的、標準的な
診療をまんべんなく行っています。



Q. 深谷日赤の強みは何ですか？

A. 伝統ある院内助産システムを継承し、妊婦健診、保健指導、出産からお産後の母乳相談
まで、一貫してきめ細かく対応できることです。ハイリスクの妊婦さんにもローリスク
の妊婦さんにも満足していただけるように日々努力しています。

Q. 今後力を入れていきたい分野はありますか？

A. 地域周産期センターとしての役割をしっかりと果たすために、小児科、麻酔科、救急科など、
関連診療科との協力関係をより強化したいと思っています。
また通院・入院中の皆様に、より快適にお過ごしいただけるよう、施設・人員等の整備
を図っていきたいと思います。

Q. 地域の皆様に向けて一言お願いします。

A. 平成 30 年 10 月からインスタグラムで産婦人科の様々な活動を
紹介していきますので、是非ご覧ください。

<インターネットから> https://www.instagram.com/frc_3s/?hl=ja

<インスタグラムから> 右のネームタグをスキャンしてください。



産婦人科スタッフ

高橋 幸男（婦人科部長）

新井 未央（医師）

長田 まり絵（嘱託医師）

佐久間 大輝（非常勤医師）

松本 智恵子（産科部長）

浅見 環（医師）

山下 恵一（非常勤医師）

岡 和彦（非常勤医師）

鈴木 永純（副部長）

鎌田 広之（医師）

松本 直樹（非常勤医師）

医療機器紹介「FPD」

平素より、病診連携を通じ、医療機器の共同利用にご賛同いただき、有り難うございます。放射線科診断部では、一般 X 線撮影室と回診用 X 線ポータブル装置を更新し、FPD を導入したことで、フルデジタル撮影装置となりましたのでご紹介いたします。

FPDとは

Flat Panel Detector の略で、体を透過した X 線をこの FPD で受け取り、デジタル信号に変換してレントゲン写真を得る装置です。従来の CR 装置と比べ、より低被ばくで高精細な写真を得ることができます。

FPDの性能

最新の画像処理技術により、高画質でノイズの少ない鮮明な画像を得ることができ、より正確な画像情報を提供することができます。

従来、撮影後に画像を確認するまで 20 秒程度かかっていましたが、**FPD では撮影後 3 秒ほどで画像が表示され確認することができます。**これにより検査効率が向上し患者さんの待ち時間の短縮が期待できます。

また、**従来の CR 装置と比べ X 線の感度が高いため、より少ない X 線量での検査が可能となり、約 40% の線量低減となりました。**また、FPD では撮影部位ごとに CR カセットを入れ替える必要がなく、連続撮影ができることから、救急撮影時の迅速な対応、疼痛を伴う患者さんなどへの負担が軽減されます。

更に、FPD を搭載したポータブル撮影装置では、撮影してからすぐに画像を確認できるほか、確認した画像をほぼリアルタイムで院内配信することができます。



今後とも、当院をご利用いただいている先生方に必要とされる画像提供に努めるとともに、患者さんに安心して検査を受けていただけるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<地域の皆様へのご案内>

当院を受診の際は、紹介状をご持参ください。

当院受診の際（初診時）は、他の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）をご持参いただくことをお勧めします。

紹介状（診療情報提供書）をご持参いただいた場合は、国が定める初診時選定療養費（医科 5,400 円・歯科 3,240 円）のご負担がなくなります。

連携医療機関のご紹介

熊谷生協病院

住 所 〒 360-0012 熊谷市上之 3854
電 話 048-524-3841
院 長 小堀勝充
診 療 科 内科、小児科、整形外科
休 診 日 日曜、祝日、土曜午後
外来受付時間 (午前) 8 時～ 11 時 30 分
(午後) 1 時 30 分～ 4 時



院長先生からのメッセージ

熊谷生協病院は「小児からお年寄りまで住み慣れた地域で生活する」を目標に、訪問診療、外来診療、入院医療、健康診断などを行なっています。入院医療では、深谷赤十字病院など他の医療機関や介護施設と連携し、退院後元の生活に戻れるようスタッフ全員で支援していきます。

くぼた医院

住 所 〒 369-0305 児玉郡上里町神保原町 2218-1
電 話 0495-35-2250
院 長 久保田達巳
診 療 科 内科、呼吸器科、消化器科、循環器科
休 診 日 日曜、祝日、木曜午後、土曜午後
受付時間 (午前) 9 時～ 12 時
(午後) 3 時～ 6 時



院長先生からのメッセージ

深谷赤十字病院で9年間勤務し、上里町で一般内科で開業して18年になります。ご近所のかかりつけ医として地域の信頼を得られるように心掛けています。立地的に群馬県の中核病院に紹介することが多いのですが、深谷赤十字病院にも日頃大変お世話になり、ありがたく思っています。

地域医療連携だより



深谷赤十字病院は地域との 医療連携に努めています。

初期診療や慢性の継続診療などは、「かかりつけ医」の先生に診ていただき、専門的な検査や診察、また入院が必要な治療は病院が受け入れるという役割分担を行うことで、地域の皆様が継続して適切な医療が受けられるような体制を維持しています。

連携医療機関のご紹介

彩花クリニック

住 所 〒 369-1246 深谷市小前田 2533-1
電 話 048-584-7205
院 長 大澤洋之
診 療 科 内科、婦人科、小児科
休 診 日 日曜、祝日、木曜
診 療 時 間 (午前) 9時～12時 (午後) 3時～7時
※土曜の午後の診療終了時間は5時



院長先生からのメッセージ

当クリニックは、内科・婦人科・小児科の診療を行っています。地域の方々が健康であることをモットーに、職員一同、明るく笑顔で接しています。待合室では、沢山の癒し(音楽、緑、色とりどりの魚たち)があります。今後も皆様に信頼されるクリニックでありたいと思っております。

ふかざわ歯科クリニック

住 所 〒 360-0832 熊谷市小島 409
電 話 048-530-4181
院 長 深澤紀貴
診 療 科 歯科、矯正歯科
休 診 日 日曜、祝日、木曜
受 付 時 間 (午前) 9時～12時
(午後) 2時30分～6時30分
※土曜の午後の受付終了時間は4時



院長先生からのメッセージ

生まれ育った地元熊谷で開業して13年目になります。開業当初より、「生涯お付き合いできる歯科医院」を目指して診療しております。丁寧な説明と、納得・安心して受けられる治療を心掛けております。外科的な治療は、深谷赤十字病院と連携しながら診療にあたらせていただきます。

INFORMATION

当院で出産される方を対象に次の教室を開催していますので、是非ご利用ください。

	内 容	開催日
ママ・パパ教室(出産準備教室) ※是非ご夫婦でご参加ください。 <1回540円>	1回目 (分娩の経過と過ごし方、ストレッチ方法、家族の役割、妊婦ジャケット) 2回目 (入院のスケジュール、オッパイの手入れ・マッサージ方法、抱っこ・おむつ替え体験、妊婦ジャケット体験)	1回目(第2日曜日) ① 10:00 ~ 12:00 ② 13:30 ~ 15:30 2回目(第4日曜日) ① 10:00 ~ 12:00 ② 13:30 ~ 15:30
骨盤セルフケア教室<540円>	骨盤のゆがみによる腰痛・肩こり・恥骨痛の改善、安産のための体操を行います。	第1、または第2月曜日 15:00 ~ 16:30
ベビーマッサージ教室<540円>	生後2~3ヵ月から1歳の赤ちゃんを対象にオイルを使用したマッサージを行います。	第1、第3月曜日 10:30 ~ 11:30
アロマトリートメントルーム <10分1,080円~>	妊娠中や分娩、産後に起こるトラブルの緩和や、リラクゼーションにアロマオイルを使用してトリートメントを行います。	毎週金曜日 14:00 ~ (要予約)

栄養課からの行事食おすすめレシピ

— さといも御飯 —

11月1日は深谷赤十字病院の創立記念日です。今年で創立68年を迎えるこの日に、病院では季節の炊き込みご飯として「さといも御飯」を作ります。ねっとりとした里芋がとても美味しい一品です。そして深谷といえば「ねぎ」ですよね！郷土愛たっぷりの「ねぎぬた」とともにお出ししています。

「ねぎ」とかけまして「深谷日赤」と解く。その心は「どちらも地域に根を張り、皆様に愛される」ことを目指して頑張ります！



材 料 (4人分)

米……………2合
里芋……………3~4個(200g)
にんじん……………1/2本
油揚げ……………1枚
酒……………大さじ1
しょうゆ……………大さじ1と小さじ1/2
塩……………小さじ1/2
だし汁(又は水)…400mL

作 り 方

- ①米は洗ってザルにあげておく。
- ②里芋は皮をむき食べやすい大きさに、にんじんはいちょう切り、油揚げは軽く湯通しをして8mm幅くらいに切る。
- ③炊飯釜に①の米、だし汁、酒、しょうゆ、塩を加えて混ぜ、②の里芋、にんじん、油揚げを米の上に均一に入れていつものように炊飯する。
※ごはんの上に万能ねぎやグリーンピースを飾ると綺麗です。



深谷赤十字病院

日本赤十字社

〒366-0052 深谷市上柴町西5丁目8番地1
Tel 048-571-1511 (代)
<http://www.fukaya.jrc.or.jp/>

Vol.58 平成30年10月25日発行
編集発行: 深谷赤十字病院
広報・公聴委員会